

主 論 文 要 旨

報告番号	甲 ㊦ 第	号	氏 名	西 村 大 輔
主 論 文 題 名				
Psychological and endocrine factors and pain after mastectomy (乳がん手術患者の周術期心理的苦痛、内分泌的要因および術後痛の関連性)				
(内容の要旨)				
<p>術前の不安や抑うつなどの心理的苦痛は、術後急性痛や遷延化した慢性痛とも強く関連するが、その機序は不明である。一方、心理的苦痛と視床下部-下垂体-副腎軸 (Hypothalamic -Pituitary -Adrenal axis: HPA軸) 機能不全の関連性がかねてより指摘されている。本研究では、乳がん手術患者の心理的苦痛、HPA軸機能と術後急性痛ならびに遷延痛との関連性を検討した。</p> <p>2012年10月から2015年3月の間に、乳癌の診断により乳房部分切除術予定となった20歳以上の女性のうち、本研究の同意を文書で得た64名を対象とした。乳房全摘出術、腋窩郭清および術前化学・放射線療法実施例は除外した。術前不安や抑うつはHospital Anxiety and Depression Scaleを用いて評価した。HPA軸機能の指標として手術2日前に24時間蓄尿中コルチゾール測定を行った。対象患者のうち29名では、術後0日の24時間蓄尿中コルチゾール測定も行った。術後急性痛はvisual analog scaleを用い、術後6ヶ月の遷延した慢性痛はマクギル疼痛質問票を用いて評価した。その結果、多項ロジスティック回帰分析により、患者背景 (年齢、body mass index、婚姻状況、がん病期等)、術前心理的苦痛 (不安、抑うつ) および術前コルチゾール値の中で、術前不安と術前コルチゾール値が術後急性痛の強さへの有意な影響因子であることが明らかとなった。すなわち、術前不安が強いほど、また術前コルチゾール値が低いほど中等度～重度の術後急性痛の発生に関与していた。さらに術前不安が強いほど、術後急性痛が中等度～重度となるほど、慢性痛化する傾向があった。相関分析により、術前不安の程度と術後コルチゾール値、術後コルチゾール値と術後急性痛の強さはそれぞれ負の相関があり、術前不安が大きいほど術後コルチゾール値が低く、術後急性痛が強かった。</p> <p>本研究により、乳がん手術患者の術前心理的苦痛と術後痛が関連する機序の一つとして、HPA軸機能不全の関与が明らかとなり、がん告知から周術期までの不安・抑うつを評価し、術前早期の段階での心理的介入がHPA軸機能維持と術後急性痛の軽減につながる可能性が示唆された。さらに術前コルチゾール値は術後急性痛の予測に有用で、術後急性痛の適切な対処により遷延痛の予防につながる可能性が期待できる。</p>				